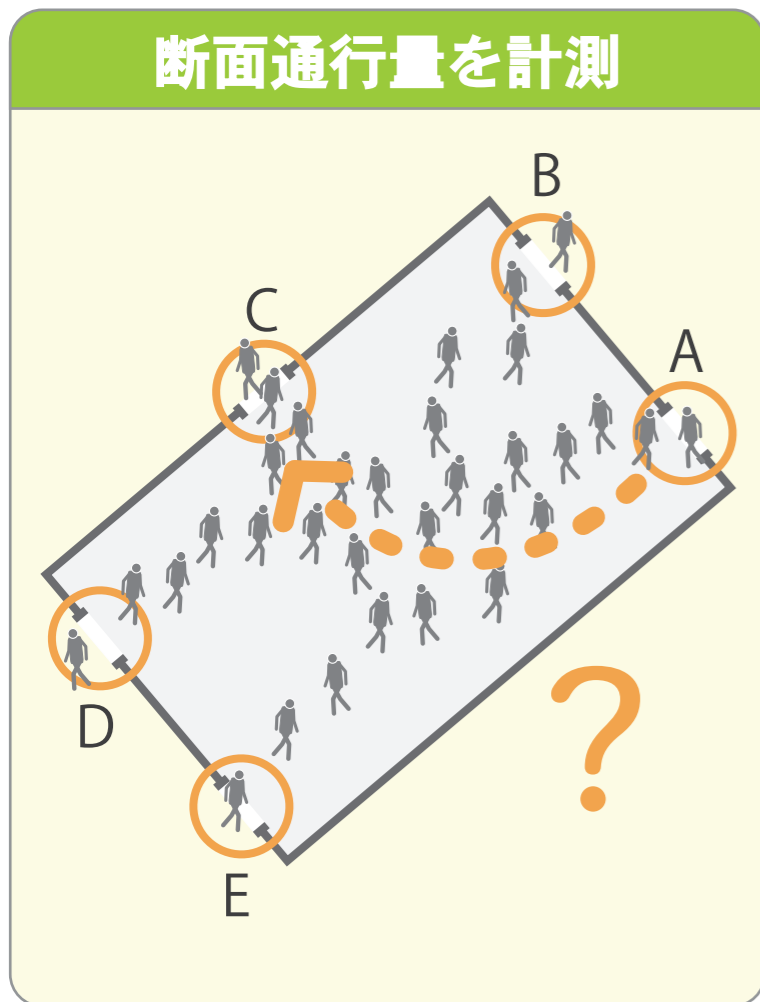


知りたい通行量が求められます

ターゲットフロー分析



経路通行量を出力


- A→B : ○○人
- B→A : ○○人
- A→C : ○○人**
- C→A : ○○人
- A→D : ○○人
- B→C : ○○人
- ⋮
- ⋮

「ターゲットフロー分析」は断面通行量から特定の経路通行量を推計する流動分析業務です。


- 計測データに統計的な処理を行うことで、通常の計測では得られない、特定の経路についての通行量が得られます。
- 一般的な断面通行量の調査結果から分析するため、面倒なアンケートや追跡調査は必要ありません。
- 混雑した場所でも問題なく適用できます。

■ 特長

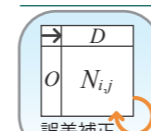
多分野で実績のある方法を採用

 推計の基本アルゴリズムは物理学、都市計画、建築計画で実績のある方法を用いています。

調査方法のカスタマイズが可能

 計測地点や対象の特性に応じたパラメータを加え、推計精度の向上が可能です。

計測データの誤差を補正

 入力データに混入している計測誤差を補正するアルゴリズムにより、推計精度を向上させています。

■ 業務の流れ

1 実地事前調査

最低限必要な計測地点、精度向上のために追加可能な計測地点を検討し、計測内容をご提案します。

2 計測

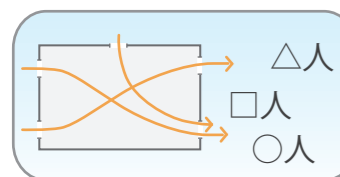
計測地点の断面通行量を計測します。計測は調査員が行いますが、改札機データ等も最大限活用します。

3 分析

計測データの誤差補正を行った後、データの分析を行い必要な通行量を推計します。

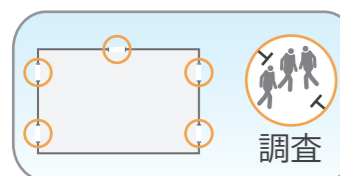
4 レポート作成

分析結果をわかりやすく図示したレポートを作成します。結果の統計処理、他のデータと組み合わせた分析もご相談ください。



あらゆる経路

知りたい経路の通行量を全て求めることができます。



簡単な調査

必要なデータは断面通行量のみです。

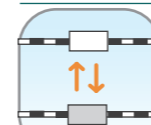


混雑時でもOK


特に往来の激しい場所での分析に適しています。

■ 活用例

鉄道駅周辺での乗換人数分析

 A社線からB社線への乗換人数、駅周辺からの乗車人数など、特定の経路の通行量を求め、開発効果などを定量的にとらえることができます。

商業施設内の詳細な通行量分析

 商業施設内の客動線を詳細にとらえることで、施設内容の評価や計画の検討に活用できます。

■ Q & A

・実績は？

「ターゲットフロー分析」はすでに他社駅間の乗換人数の経年変化分析に用いられています。また、「ターゲットフロー分析」のアルゴリズムは、都市計画、建築計画、物理学など様々な分野で活用されています。

・精度は？

「ターゲットフロー分析」が求められる通行量は、本来ならば調べることが不可能な経路の通行量です。いくつかの条件に基づく推計によって通行量を求めているため、誤差が生じる可能性があります。